

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆 CH21 6/22 中に静穏化の場合→6/24発生の可能性 6/21 22時時点で静穏傾向

本観測の観測歴上最長となる、約8年継続の前兆群No.1778の現況報告です。

No.1778前兆の最終段階認識ですが、最終極大=6/15.5に対して、前兆終息が観測されない限り発生推定ができません。

CH20の顕著な特異出現開始6/12を初現の可能性と考えておりましたが、6/12初現=6/15.5極大の関係では6/20±3が推定され、最大誤差の6/23発生の場合には、本日6/21夕刻迄に前兆が終息しないと経験則に合わなくなります。しかしCH21継続中。

以下に静穏化の場合⇔推定発生

- 6/22 00時~05時 ⇔ 6/24午前
- 6/22 06時~12時 ⇔ 6/24午後
- 6/22 13時~22時 ⇔ 6/25午前
- 6/23 00時~05時 ⇔ 6/25午後

現在6/21の22時30分。右波形は6/21の22時までのCH21基線です。大きな変動が少なくなり、通常基線電圧値にかなり近づいています。他の前兆は静穏化しており、このCH21特異のみが最終前兆です。

CH20特異を初現とせず、第16段階が示した6/12±、6/13±から、6/12を単純に初現とし、6/15.5を極大として経験則に当て

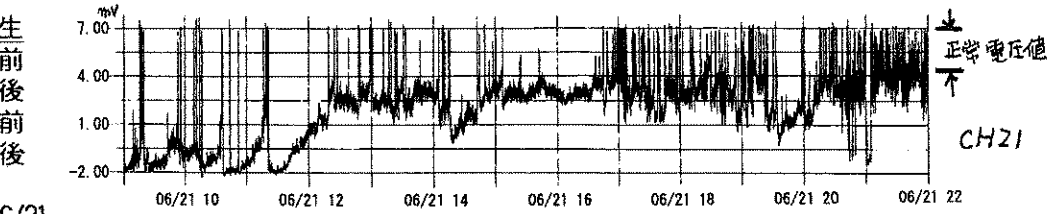
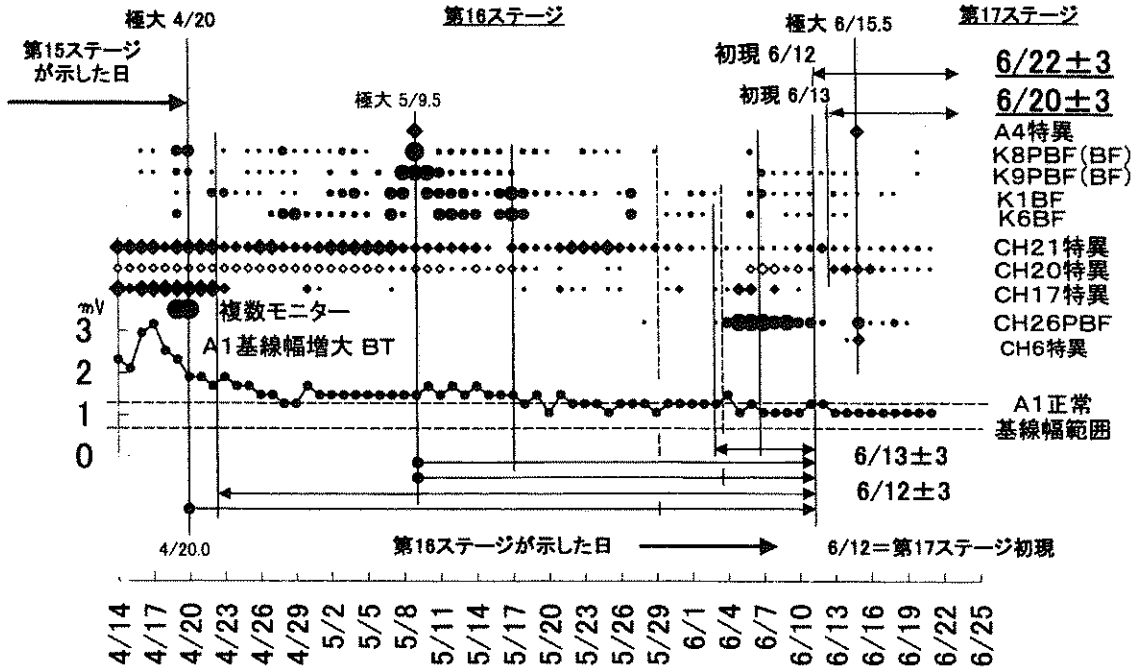
はめますと、6/22±3が計算されます。最大誤差6/25まで。

6/20にK8, K9に同期した微弱な変動が観測されましたが、極大には見えず、前回報告のCH4の特異も微少ですぐ消えました。

現状、6/20~21に極大や新たな前兆初現は確認できませんので、CH21が終息した時点で、静穏化と認識され、発生日を計算

できます。終息の場合は、一時間程度で一気に静穏化する場合もあります。取り急ぎ、6/23迄の発生は否定できること。最終前兆のCH21の現況を報告させて戴きました。

※HP担当の方の都合で更新は夜となるそうです。22日23日に続報配信の場合も、HPの更新は夜となる模様。



- ◆推定領域: 右図
 - ・大枠推定領域=点線領域内
 - ・推定領域 =太線領域内
 - ・参考推定領域=斜線領域
- ◆推定規模: M7.8 ± 0.5
(参考: 火山帯近傍地殻地震前兆=M6.7 ± 0.5を示す)
- ◆推定時期: 6月24日 (or 25日) ⇔ 6/22~23静穏化が条件
※上記は 6/22~23に前兆静穏化した場合に限る。6/24段階で前兆継続の場合は、その後の観測を鑑み再考し続報予定。
- ◇推定発生時刻: 午前9時 ± 1 (又は午後6時 ± 3) ※上図は最も考えやすい前兆出現影響局から求めた推定領域(太線内領域)です。可能性低いですが、影響局誤認の場合は全く異なる領域となります。
- ◇推定地震種: 震源浅い陸域地殻地震

